

施策評価表

平成28年度分

①	施策コード	6・1・6	評価担当課	農林課	総合戦略	行政経営	過疎
②	施策名	畜産の振興					
③	目標	農林業の振興（基盤整備や経営指導など）に満足している町民の割合					
④	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本町の農業は、稲作と畜産が生産額の大半を占めています。近年では新たな柱の一つとして園芸作物（ブロッコリーや小菊など）の振興にも力を入れています。また、本町は平坦地から中山間地域までを有していることから、地域の特性を活かした農業の展開が求められています。 ◆ 農業を取り巻く情勢は厳しさを増していますが、本町においても例外ではなく、農家数減少、農業従事者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加など問題は深刻化しています。本町においては、農業生産基盤の整備や生産技術の向上、将来的な農業の担い手対策など、これらの課題に対応するための取り組みを行っています。 ◆ 畜産についても、農家数は減少しておりますが、酪農は、中核的農家の規模拡大が進んでいる一方で、繁殖和牛は小規模農家が多く、飼養頭数は減少傾向にあります。 ◆ 食の安全・安心志向への高まりの中、引き続き環境保全型農業を進めていくとともに、消費者との交流を深めながら、顔の見える農業や地産地消に取り組んでいく必要があります。また、高齢者や女性グループを中心に農産物の加工や直売所などでの販売も広がりを見せており、本町ならではの特産品開発や次産業化に期待が寄せられています。 ◆ 森林は、本町の行政区域面積の7割を占め、木材生産のほか水源涵養等の多面的機能を有しており重要な役割を担っています。そのため、町の森林整備計画に基づき、貴重な財産である自然環境の保全や水資源の涵養などのため森林の整備に努めるほか、都市住民との交流の場、環境学習の場として活用していくなど、総合的な地域林業の振興が求められます。 		施策の内容	畜産農家の生産基盤の強化と生産性の向上により、さらなる産地育成を進めるとともに、耕畜連携により良質で安定的な自給飼料の確保と資源循環型農業を推進し、畜産の振興を図ります。		

⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)				
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
飼養頭数(乳用牛)※搾乳牛	頭	1,272	1,267	1,230	1,250	1,280	1,300
飼養頭数(肉用牛)※繁殖素牛	頭	355	326	310	330	350	370

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

構成事務事業の事業費の合計	27年度	28年度	29年度(計画)	30年度(計画)	31年度(計画)
	10,807	11,447	38,082	214,800	114,300

1年間の取組の総括

⑧	1年間の主な取組と成果	酪農振興組合への指定管理により、町営放牧場の適切な管理と畜産農家の負担軽減が図られた。また、畜産団体の運営を支援し、円滑な団体運営が行われるとともに、各種畜産関係補助事業の実施により、畜産振興に寄与した。	
⑨	施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	◎	【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要

今後の取組

⑩	今後の取組	畜産農家の高齢化や減少にともない、生乳生産量や肉用牛の出荷頭数が減少傾向にある。特に、肉用牛において顕著であることから、引き続き、繁殖素牛の増頭・更新を進める一方で、繁殖基盤を強化するための子牛育成センターの整備を進める。さらに、畜産農家の経営安定のため、自給飼料増産に向けた事業を実施する。
---	-------	--

⑪	次年度以降の方針 (主担当課)	拡充	【説明欄】 繁殖基盤の強化や畜産農家の負担軽減を図るため、子牛育成センターの整備を進める。
	委員会評価	拡充	【委員会意見欄】 既存事業の継続とともに、繁殖基盤の強化や畜産農家の負担軽減を図るため、子牛育成センターの整備を進めること。